

48th

令和3年度 6月号 [6月15日(発行)]

校訓 自主・協同・創造



岸川中だより

川口市立岸川中学校
川口市安行領根岸374番地の1
TEL268-4506 FAX268-4761
特別支援学級 TEL268-7110
さわやか相談室TEL268-4510
<https://kishikawa.official.jp>

必ず ホシを挙げる！ いくゾ！ オウ!!

校長 松田 隆幸

今夜は、このドラマの日だからね！そう言われると、彼女に全ての決定権があり、私はものを言わず、自分の好きな番組を見ることなく、従順になる。仕事で遅くなることもあり、なかなか初めから終わりまで一話完結の番組を観ることはできないが、「どうしたんだね？大岩捜査第一課長?!」の辺りからは毎話観る事ができている。不思議なことに、観ていると番組に引きずり込まれてくる。昭和生まれのテレビっ子世代の性なのだろうか？自分でよくよく引きずり込まれる理由を分析してみたところ、タイトルにあるアノ台詞の瞬間が最も引きつけられていることに気がついた。「……身勝手なことにより……被害者の無念を晴らすため、必ずホシを挙げる！」とナイツのネタ的に言えば棒読み台詞だが、決め台詞を力強く、被害者の側に立って、言い切る！当然だが、ホシ（犯人）はこの時点で捕まっていない。刑事ドラマでよくある展開では、逮捕の瞬間に決め台詞を持ってくる話の展開だろうが、結果の前に「必ず……」を付けて言い切る。そこに安心や頼もしさを感じ取ることができ、捜査一課長の台詞の後の「オウ！」の揃った野太い捜査員の声からは、責任を果たそうとする使命感を感じ取れる。そこから、観る側の期待感を自覚し、信頼されている捜査員として目に映るのではないかとテレビ番組からこんなところまで妄想を広げている。そこで、、、ですが、、、……。大岩捜査一課長よろしく、校長として、やってみたい、、、改め、、、やらなくてはならないことがある。それは、生徒の学力の向上である。自分なりに脚本を考えてみた。学校が期待され、信頼され、MUSTとして取り組むべきこととは？「学力の向上」の答えをどうやって出すか？職場全体で一つの目標に向かい生徒・保護者に寄り添い、「必ず……」という強い信念を持ち、本来の責務を確実に果たそうとする。イクゾ！の号令の後には、澆刺とした先生達の生徒に接する笑顔と真剣な眼差し！そんな取り組みをしていきたいと考えている。

「今の自分に満足することなく、高みを目指し、自身の力で進路という未来を力強く切り拓くことができるよう、生徒一人一人に寄り添い、必ず学力を上げる！」

いくゾ！ オウ！

令和5年岸川中学校は創立50周年
2023 Kishikawa.J.H.S 50th ANNIVERSARY